

平成25年度 第1回平塚市障がい福祉施策推進懇話会 議事録

1 日時・場所

日 時： 平成25年8月27日（火） 14:00～15:10

場 所： 平塚市役所 東附属庁舎2階 B会議室

2 出席者

委 員： 市川進治（精陽学園施設長）、高橋國明（平塚市民生委員児童委員協議会理事）、振原秀雄（地域活動支援センタースマイル所長）、岩田美里（山晃中央園ひばり乃ショップ施設長）、前田美智子（平塚市視力障害者協会会長）、雨宮恵子（平塚地区自閉症児・者親の会会長）、村田剛（平塚市精神障害者地域生活支援連絡会ほっとステーション平塚施設長）、清水悦子（湘南養護学校教諭）

事 務 局：大野障がい福祉課長、坂田課長代理、辻主管、木村主査

傍 聴 者：なし

3 次第

(1) あいさつ 大野障がい福祉課長

この平塚市障がい福祉施策推進懇話会については、これまでの平塚市障がい児者サービス調整部会から今年度4月1日に組織がえをしたものである。懇話会の目的は「障がい福祉施策の推進に関すること」、「平塚市障がい者福祉計画に関すること」となっているため、それらに係る諸課題について御議論をいただきたい。

本日は今年度最初の懇話会となるが、議題として「ガイドブックの完成について」「平塚市障がい者福祉計画（第3期）の策定に伴うアンケートの実施について」を用意している。皆様の忌憚のない御意見をお願いしたい。

(2) 議題

① ガイドブックの完成について

【事務局から説明】

[説明要旨]

昨年度1年間にわたり御検討いただいた「障がいのある方を理解するためのガイドブック」が7月に完成した。早速、7月29日に民生委員児童委員の障害者部会において、このガイドブックを活用した研修を行った。また、8月6日には毎年福祉部で受け入れている東海大学の社会福祉士実習生に対しても研修を行った。さらに、ホームページ掲載や窓口配架、報道関係への情報提供もさせていただいた。今後は、庁内や外部機関等への配布もしていく予定である。

【意見交換・質疑応答】

[要旨]

座長 印刷部数はどのぐらいか。

事務局 とりあえず500部印刷したが、もう500部はすぐに増刷できるように用意をしている。

座長 今後の外部機関への配布予定はどうなっているのか。

事務局 民生委員児童委員が12月で一斉改選されるので、新委員全員に配布することになっている。また、障害福祉関係団体、相談支援事業所、保健福祉事務所、社会福祉協議会等にも配布したいと考えている。

座長 団体等で研修にこの冊子を使いたいという要望があった場合、ある程度まとまった冊数の配布は可能なのか。

事務局 増刷して配布することは可能である。

委員 配布した先にモニタリングをして、どのように活用されたかを把握できるようにしてはどうか。

事務局 そのようなことも必要と思うので検討したい。

座長 今後、定期的に見直しはしていくのか。

事務局 難病の部分などは今後動きがありそうなので、必要に応じて見直しをしていきたい。

委員 多くの人に障がいのことを知ってもらうのが趣旨なので、社会福祉協議会のボランティア講座などでも活用してもらえばよいのではないか。また、発達障がいの障がい名変更については、一般的に浸透するにはまだ時間がかかりそうなので、この冊子のような表現でよかったと思う。

委員 各事業所に1冊ずつ配布して活用してもらってもよいと思う。

事務局 市のホームページからもダウンロードができるようになっている。冊子全体はもちろんだが、個別の障がいごとに印刷もできるので、ぜひ御活用いただきたい。

② 平塚市障がい者福祉計画（第3期）の策定に伴うアンケートの実施について

【事務局から資料に基づき説明】

[説明要旨]

現在、平塚市では様々な障がい福祉施策を行っているが、それは「平塚市障がい者福祉計画（第2期）」に基づいている。この現行計画の実施期間が平成19年度から26年度までの8年間となっているため、次期計画（第3期）の策定作業を26年度中に行う必要がある。次期計画の策定にあたっては、社会情勢の変化や法改正等を踏まえ、障がい者本人や社会のニーズを的確に反映させる必要がある。そのため、策定作業に先立ち市民アンケートを実施し、意見やニーズ等の集約を図りたいと考えている。

・アンケートの概要について

【実施日程】 発送が平成26年2月7日（金）、締切りが3月7日（金）を予定している。

【対象者数】 全体で2,900名（障がい者2,300名、健常者600名）である。

障がい者の内訳は、身体障がい者1,640名（肢体870名、聴覚160名、視覚120名、内部・言語490名 ※各対象者数は、手帳取得者人数に比例させ算出）、知的障がい者240名、精神障がい者

320名、障がい児（18歳未満）100名。障がい児は障がい種別に関わらず、すべての手帳所有者の中から年齢要件で抽出した。

健常者の600名（住民基本台帳から無作為抽出）は、「平塚市住民実態調査」と同様の根拠で算出したものである。（回収率を65%と想定し、誤差をプラスマイナス5%以内に抑えるには標本数600が必要）

【アンケートの内容】今回は平成22年度に現行計画の改訂を行った際に実施したアンケートを参考資料として配布したが、これをベースに新たな要素を加味したものとした。「障がい者用」「知的障がい者用（ルビ・平易文）」「視覚障がい者用（SPコード対応）」「健常者用」をそれぞれ作成したい。

【アンケート活用方法】回収したアンケートは集計分析を行い、新たな計画に反映させたい。また、必要に応じて庁内各課へ分析結果を提供し、各課の施策事業への活用を依頼したい。

・平塚市障がい者福祉計画（第3期）の策定スケジュールについて

【25年度】今回の懇話会で出た意見を反映させたアンケート案を次回の懇話会（11月を予定）で検討し、案を確定させる。2月に発送し3月に回収、3月の懇話会で集計結果報告を行う。

【26年度】4月に計画素案の作成を開始し、7月の懇話会で進捗状況報告・アンケート分析結果報告。8～9月で事業担当課ヒアリングをし、10月の懇話会で素案内容検討。11月に素案を確定させ、定例行政報告会で説明。12月にパブリックコメント及び関係団体ヒアリングを実施し、計画書作成開始。2月の懇話会で計画書の承認をいただいた後に庁議・定例行政報告会で報告。3月に計画書の印刷・配布を行い、27年度4月より計画施行。

アンケートの概要及び計画策定スケジュールについては以上である。参考資料として配布している前回アンケートの内容も御一読いただいていると思うので、現時点での御意見をいただければと思う。

【意見交換・質疑応答】

[要旨]

座長 第3期計画を策定するにあたり、第2期計画の評価は行うのか。

事務局 事業ごとに26年度までの目標値等が入っているので、実績をまとめることになるかもしれないが、それについては確認したい。

なお、参考に前回にアンケート調査の回収率だが、健常者が44.0%、障がい者が58.0%、全体で54.9%であった。

座長 このようなアンケートでは、回収率としては高い方なのか。関心が高いと考えてよいか。

事務局 想定よりは回収率が高かったようである。特に障がい当事者にとっては自分のことであるし、自由に意見を書く欄もあるので6割近い回収率となっている。

委員 視覚障がい者にはSPコード対応のものを送付するとのことだが、専用の機械がないと読み取ることができない。CDなど他の媒体にしても同じ問題が出てきてしまうので、何か対策を考えなければいけな

いと思う。

事務局 視覚障がいの方については、そこが一番難しい問題である。事務局としても前回の状況を確認した上で対策を考えなければいけないが、何か良い案があれば御教示いただければ有難い。

委員 障害者用アンケートの間7は介助の必要度についての質問だが、コミュニケーション介助については「会話及び意思伝達」という表現しかない。視覚障がい者としては「代読」など文字についての表現も入れてほしい。これは知的障がいの方にも通じる部分であると思う。また、問6-1では、選択肢2の「公営住宅以外」という表現が分かりにくいのではないか。括弧の中の「一般住宅、寮、賃貸住宅など」だけでもよいのではないか。

事務局 確かに分かりにくい表現なので、検討させていただきたい。

座長 このアンケートの対象者に年齢の上限はあるのか。

事務局 年齢の上限は設けていない。

座長 65歳以上の高齢者の中には介護保険の該当者も含まれるという認識でよいか。

事務局 そのように認識していただきたい。

委員 障がい者用アンケート問6-1の住まいについての質問は必要性があるのか。

事務局 問6以降は生活の現状について尋ねる質問なので、対象者がどのような住居に住んでいるかということについても把握する必要があると考える。特にバリアフリー関連の施策などには必要な情報ではないかと考えている。

委員 障がい者用アンケート問3の年齢に関する質問では、高齢者が65歳以上という括りになっているが、現在では80歳ぐらいの方も大勢いる。それを踏まえて問6-2を見ると、「子と住んでいる」という選択肢がない。最近はかなり高齢化が進んでいるので、そのような高齢者の視点での質問を入れてもよいのではないか。

委員 健常者用アンケートには、障害者虐待や合理的配慮など、法改正や社会情勢の変化などを反映した項目を入れてもよいと思う。それによって健常者がどのぐらい障がいのことを理解しているかを把握でき、計画にも反映できるのではないか。

また、障がい者用アンケートの間22に災害対策についての質問があるが、「移動手段」についての選択肢も入れてほしい。避難所に行きたくても行けない人や、動くのが大変だから避難所に行かずに自宅にいるという人もいるので、そのようなニーズの把握も必要と思う。

次に、健常者用アンケートの間3であるが、ここはなるべく具体的な言葉で選択肢をもう少し追加してほしい。さらに、問7であるが、選択肢2にある「体験ボランティア」とは何を指すのかがわかりにくい。社会福祉協議会で実施している車いす体験のようなものなのか。

また、障がい者用アンケートの間16にあるような災害対策についての質問を、健常者用アンケートにもぜひ入れてほしい。地域の方の協力がないと障がいの災害対策は進まないで、自由記載欄も設けて健常者が思うところを記入できるようにしていただきたい。

座長 障害者虐待防止法や障害者差別解消法など様々なことについて、このようなアンケートを通して周

知することも重要なポイントだと思うが、啓発する手段は他にあるのか

事務局 障がい者に対する理解を深めるための啓発については障害者総合支援法でも必須事業となっているので、このアンケートでも障害者虐待防止法や合理的配慮等に関する質問を設けるなど、意識づけをしていける方法を検討したい。

委員 障がい者用アンケートの間24の選択肢8だが、ここだけ「はざまの障がい」ということで障がい種別が記載されている。他の項目のように具体的なサービス名が記載されているわけではないし、どれだけの人がこの選択肢を選ぶかということを考えるとそこまでの理解が進んでいない面もある。ここで埋もれてしまうとさらに理解が進まなくなってしまうことも考えられるので、このはざまの障がいをどうクローズアップするかということも難しい問題だと思う。

委員 知的障がい者用アンケートの間12は外出する頻度についての質問だが、平日は通所している人が多いので、回答はほとんどが「ほぼ毎日」になってしまうと思う。逆に休日はほとんど外に出ないという人もいるので、「休日は何をしているか」といった質問を入れてもよいかもしれない。

委員 知的障がい者用アンケートの間14に、「出かけたくない」という選択肢はなくてよいか。

委員 「出かけたが出かけられない（手段がない）」という表現でもよいかもしれない。

座長 困っていることがある場合には、間15に自由記載する欄があるが。

委員 間15についても、知的障がいということを考えると、自由記載方式よりも項目を整理して記載し、選択できるようにした方がよいのではないか。

事務局 今回いただいた御意見については持ち帰り検討させていただきたい。次回はアンケート案をお示しし、御議論をいただいた上で確定させる方向で進めていきたいと思うので、御協力をよろしく願いたい。

③ その他

特になし

以上